

地域スポーツ・クラブへの男子の参加を 規定する要因の分析

鳥取大学教育学部 福元 和行
山口大学教育学部 遠藤 勝恵

A Study on the Determinants of Males' Participation in Community Sport Clubs

Kazuyuki FUKUMOTO*, Katsue ENDO**

I 研究目的

地域スポーツの重要性が謳われ、地域スポーツ振興の中心的役割を担うスポーツ・クラブの重要性が指摘されて久しいが、その重要性は今日益々増大していると言える。スポーツ・クラブは活動が組織的、計画的、そして継続的に行われるため個人的、社会的運動効果を獲得する可能性の高い活動の場として期待されているのである。

これまでにスポーツの実施状況を規定する要因についてはいくつかの研究^{1,2)}があり、「性」「年齢」「職業」「結婚」「生活時間」「過去のスポーツ経験」など様々な要因が指摘されている。

一方、スポーツ・クラブへの参加状況を規定する要因については、スポーツ活動の中心をなす活動がクラブにおける活動であることは事実であるが、スポーツ実施状況の規定要因がスポーツ・クラブへの参加状況の規定要因と同一であるとは言い難いにもかかわらず、あまり研究が行われていないのが実状である。またスポーツ実施状況を規定する要因の中で、分析内容である過去のスポーツ経験については、「過去のどのようなスポーツ経験が現在のスポーツ行動にどのような影響を及ぼすか、といったより詳細な分析をすすめていくことが求められる」³⁾と指摘されているように、社会人の場合の過去のスポーツ経験の分析は、長期間を分析対象として詳細に検討を加えていく必要がある。

過日、女子のスポーツ・クラブへの参加状況を規定する要因の分析を行ったが^{注1)}、本研究は地域社会での男子のスポーツ・クラブへの参加・不参加を規定する要因を、特に過去のスポーツ経験及びそれに伴う認知の側面から探ることを研究目的としている。

* Department of Physical Education, Faculty of Education, Tottori University

** Department of Physical Education, Faculty of Education, Yamaguchi University

II 研究方法

1 データの収集

本研究では山口県教育委員会が1988年12月12日から1989年1月20日にかけて郵送法により県内の56市町村から人口の比率に基づき収集したデータの中から、男子282名分を採用し分析を行った。標本の構成は表-1の通りである。

表-1 標本の構成

		N	%
1. 年齢	20才代	70	24.9
	30才代	93	33.1
	40才代	74	26.3
	50才代	28	10.0
	60才以上	16	5.7
2. 結婚	未婚	72	25.8
	既婚	202	72.4
	離死別	5	1.8
3. 末子年齢	子供いない	64	24.2
	就学前	71	26.9
	小・中学生	77	29.2
	高・大学生	26	9.8
	就職	26	9.8
4. 職業	農林漁業	10	3.7
	商業	26	9.6
	事務職	90	33.2
	専門管理職	17	6.3
	土木・建設	25	9.2
	公務員	16	5.7
	無職・その他	87	32.1
5. 居住地区	商業地区	16	5.8
	工業地区	6	2.2
	住宅地区	115	41.8
	農山漁村地区	138	50.2
6. 通勤時間	15分未満	127	45.7
	15分以上30分未満	61	21.9
	30分以上	58	20.9
	通勤していない	32	11.5
7. 平日の自由時間	3時間未満	135	48.4
	3時間以上4時間未満	82	29.4
	4時間以上5時間未満	36	12.9
	5時間以上	26	9.3
8. 休日の自由時間	4時間未満	57	20.4
	4時間以上7時間未満	78	27.9
	7時間以上10時間未満	70	25.0
	10時間以上	75	26.8

調査内容は山口県教育委員会が実施した「山口県民のスポーツに関する調査」の調査内容の中から個人的属性に関して9項目、スポーツ経験に関して40項目など合計76項目を採用し、分析の対象とした。なお、外的基準であるスポーツ・クラブ^{註2)}への参加状況を測定するための調査項目の内容は(1.入っていない, 2.入っているが実際には練習に参加していない, 3.5回に1回位の割合で練習に参加している, 4.5回に2~3回位の割合で練習に参加している, 5.5回に4回以上の割合で練習に参加している)である。また、スポーツ経験についての調査内容は小学校時代より現在までを調査対象期間とした。

2 データの分析

スポーツ・クラブへの参加状況と各変数との関係を探るため χ^2 値を求めたが、有意差の見られる 2×3 以上の分割表を使用した変数については、残差分析を行った。

また、林の数量化理論Ⅱ類の適用に際しては、前記調査内容の1をスポーツ・クラブ不参加群、2~5をスポーツ・クラブ参加群とし、外的基準とした。

スポーツ経験については「非常にあてはまる」から「まったくあてはまらない」までのリッカート尺度の4段階評定を「あてはまる」「あてはまらない」の2段階評定に統合し直し、解析した。解析の条件は、 $T=2$ (スポーツ・クラブ参加群115名, 非参加群153名), アイテム数48, カテゴリー総数116である。

III 結果および考察

1 外的基準と説明変数のクロス集計結果

1) 個人的属性

表2は外的基準(スポーツ・クラブへの参加状況)と年齢の関連を見ようとしたものである。 χ^2 検定の結果、年齢別のスポーツ・クラブ参加状況に差が見られたため、残差分析を行った結果、30才代及び50才代で前者に1%水準、後者に5%水準の有意差が表れており、年齢の若い人にスポーツ・クラブへの参加者が多いことがわかる。

表3は外的基準と末子年齢の関連を見ようとしたものであるが、有意差が見られるため残差分析を行った結果、末子年齢が就学前の人に有意差(1%水準)が、また末子は就職しているとする人に有意傾向(10%水準)が表れており、末子の年齢の低い父親にスポーツ・クラブへの参加者が多く見られる。

表-2 外的基準と年齢のクロス集計結果

	I	II	III	IV	V
スポーツ・クラブに参加	43.5	55.6	38.6	16.7	28.6
スポーツ・クラブに不参加	56.5	44.4	61.4	83.3	71.4
	(N=69)	(N=90)	(N=70)	(N=24)	(N=14)
I: 20才代	II: 30才代	III: 40才代	χ^2 値=14.328	**<.01	
IV: 50才代	V: 60才以上				

表-3 外的基準と末子年齢のクロス集計結果

	I	II	III	IV	V
スポーツ・クラブに参加	40.3	61.2	38.2	30.4	26.9
スポーツ・クラブに不参加	59.7	38.8	61.8	69.6	73.1
	(N=62)	(N=67)	(N=76)	(N=23)	(N=26)
I:子供いない II:就学前 III:小・中学生			χ^2 値=14.187	**<.01	
IV:高・大学生 V:就職					

2) スポーツ経験

① 中学時代のスポーツ経験

中学時代のスポーツ経験と外的基準との関連を見ようとしたのが表-4である。3変数に有意差が認められたが、「運動クラブに所属したことがある」「地域のスポーツ大会によく参加した」「スポーツは健康に役立った」の各設問に対する肯定群では否定群と比較して、現在スポーツ・クラブに参加している人が多く見られる。

表-4 外的基準と中学時代のスポーツ経験関連変数のクロス集計結果

要 因	説 明 変 数	クロス集計	
		χ^2 値	P
中学校時代の スポーツ経験	運動クラブに所属した	7.454	**
	地域のスポーツ大会に参加した	4.442	*
	健康に役立った	3.938	*
		*<.05	**<.01

② 高校時代のスポーツ経験

高校時代のスポーツ経験と外的基準との関係を見ようとしたのが表-5である。7変数に有意差が認められたが、「運動クラブに所属したことがある」「地域のスポーツ大会によく参加した」「スポーツは楽しかった」「スポーツ経験は充実していた」「スポーツは健康に役立った」「スポーツは仲間づくりに役立った」「スポーツはよい思い出がある」

表-5 外的基準と高校時代のスポーツ経験関連変数のクロス集計結果

要 因	説 明 変 数	クロス集計	
		χ^2 値	P
高校時代の スポーツ経験	運動クラブに所属した	8.596	**
	地域のスポーツ大会に参加した	8.930	**
	楽しかった	6.972	**
	充実していた	7.132	**
	健康に役立った	4.250	*
	仲間づくりに役立った	4.677	*
	よい思い出がある	3.894	*

*<.05 **<.01

仲間づくりに役だった」「スポーツにはよい思い出がある」の各設問に対する肯定群では否定群と比較して、現在スポーツ・クラブに参加している人が多く見られる。

③ 19才～22才のスポーツ経験

表-6は19才～22才のスポーツ経験と外的基準の関連を見ようとしたものである。「スポーツ・クラブに所属したことがある」「休日などに家族や仲間などと少人数で自由に運動した」「地域のスポーツ大会によく参加した」「スポーツは楽しかった」「スポーツ経験は充実していた」「スポーツは仲間づくりに役だった」「スポーツにはよい思い出がある」の各設問に対する肯定群では否定群と比較して、スポーツ・クラブ参加者が多く見られる。

表-6 外的基準と19才～22才のスポーツ経験関連変数のクロス集計結果

要 因	説 明 変 数	クロス集計	
		χ^2 値	P
19才～22才の スポーツ経験	スポーツ・クラブに所属した	13.007	***
	休日などに自由に運動した	3.929	*
	地域のスポーツ大会によく参加した	4.642	*
	楽しかった	4.481	*
	充実していた	5.892	*
	仲間づくりに役立った	4.390	*
	よい思い出がある	3.867	*

* < .05 *** < .001

④ 23才以降のスポーツ経験

表-7は23才以降のスポーツ経験と外的基準の関連を見ようとしたものである。「スポーツ・クラブに所属したことがある」「休日などに家族や仲間などと少人数で自由に運動した」「地域のスポーツ大会によく参加した」「スポーツは楽しかった」「スポーツ経験は充実していた」「スポーツは健康に役だった」「スポーツは仲間づくりに役だった」「スポーツにはよい思い出がある」の各設問に対する肯定群では否定群と比較して、スポーツ・クラブ参加者が多く見られる。

表-7 外的基準と23才以降のスポーツ経験関連変数のクロス集計結果

要 因	説 明 変 数	クロス集計	
		χ^2 値	P
23才以降の スポーツ経験	スポーツ・クラブに所属した	80.471	***
	休日などに自由に運動した	12.814	***
	地域のスポーツ大会によく参加した	31.345	***
	楽しかった	19.018	***
	充実していた	23.165	***
	健康に役立った	20.210	***
	仲間づくりに役立った	19.147	***
	よい思い出がある	18.658	***

*** < .001

外的基準と個人的属性及びスポーツ経験に関連する変数の関連を探ったが、個人的属性に関して2変数に有意差が確認された。また、スポーツ経験に関しては中学時代で3変数、高校時代で7変数、19才～22才で7変数、23才以降で8変数に有意差が認められたが、小学時代のスポーツ経験関連変数には有意差は認められなかった。女子で有意差の認められた変数は11変数であるが、男子では27変数となっており男子の方にスポーツ・クラブへの参加状況と関連のある変数の多いことがわかる。

また、女子では19才以降のスポーツ経験に有意差が認められたが、男子では中学時代以降のスポーツ経験に有意差が認められており、より早い時期のスポーツ経験がスポーツ・クラブへの参加状況と関連する事を示唆している。

2 要因分析の結果

1) 地域のスポーツ・クラブへの参加の規定要因

表-8は地域のスポーツ・クラブへの参加状況の規定要因の分析結果である。 η^2 値は0.487であった。レンジを手がかりに考察を行うが、各要因の規定力の大きさは「23才以降にスポーツ・クラブに所属したことがある」「結婚」「居住地区」「末子年令」「平日の自由時間」「職業」「中学時代のスポーツ経験は仲間づくりに役だった」「高校時代に地域のスポーツ大会に参加した」「23才以降のスポーツ経験は楽しかった」「高校時代のスポーツ経験にはいい思い出がある」という順序になっている。

上位10アイテムの内訳は個人的属性に関連するアイテム5、中学時代のスポーツ経験に関連したアイテム1、高校時代のスポーツ経験に関連したアイテム2、23才以降のスポーツ経験に関連したアイテム2となっており、個人的属性に関するアイテムが半数を占めているが、女子の場合の6アイテムと同様、スポーツ・クラブへの参加状況を規定する有力な要因となっている。

スポーツ経験に関連したアイテムでは中学時代以降のスポーツ経験に関連したアイテムが5アイテム見られるが、女子では10位以内には19才以降のスポーツ経験に関連したアイテムしか見られなかったため、スポーツ・クラブへの参加状況に対する学生時代のスポーツ経験の影響は女子よりも男子の方で大きいといえる。

2) カテゴリー・スコアと寄与の方向

カテゴリー・スコアは各カテゴリーが外的基準のどの方向にどれだけの強さで影響を与えているかを見ることを可能にするものであり、本研究では、カテゴリー・スコアが正の符号の場合クラブに参加している、という方向に寄与し、負の場合クラブに参加していない、という方向に寄与することになるが、カテゴリー及びカテゴリー・スコアは表-8の通りである。

上位10アイテムの中の個人的属性に関連したアイテムである「結婚」「居住地区」「末子年令」は女子にも見られた男女に共通した規定要因であり、男女とも商業・住宅地区が参加の方向に寄与し、未婚が不参加の方向に寄与しているが、「末子年令」では子供なし・就学前が参加に寄与し、小・中学生及び高・大学生が不参加に寄与するという男子の結果は、就学前までは不参加に寄与し、小学生以降は参加に寄与するという女子の結果とは異なっており、男女差が表れている。この結果は女子の分析対象をクラブに所属し、クラブの練習にはほとんど参加している人とクラブに所属していない人という2群を設定した結果の表れと考えられるが、理由の特定は今後の課題としたい。また、「平日の自由時間」「職業」は女子に見られなかったアイテムであるが、前者について自由時間が長いほど参加に寄与する、という結果にはなっていない。女子に見られた「休日の自由時間」が

表-8 要因分析の結果

アイテム	レンジ	順位	カテゴリー	カテゴリー・スコア	偏相関	順位
23才以降にスポーツ・クラブに所属したことがある	1. 686	1	有る	. 837	. 481	1
			無い	-. 849		
結婚	. 898	2	未婚	-. 205	. 138	4
			既婚	. 050		
			離死別	. 693		
居住地区	. 866	3	商業地区	. 341	. 102	9
			工業地区	-. 525		
			住宅地区	. 029		
			農山漁村地区	-. 040		
末子年令	. 672	4	子供なし	. 207	. 192	2
			就学前	. 221		
			小・中学生	-. 281		
			高・大学生	-. 451		
			就職	. 102		
平日の自由時間	. 564	5	3時間未満	-. 114	. 164	3
			3時間以上4時間未満	. 280		
			4時間以上5時間未満	-. 009		
			5時間以上	-. 284		
職業	. 508	6	農林漁業	-. 255	. 114	6
			商業	-. 107		
			事務職	. 124		
			専門管理職	-. 266		
			土木・建設	-. 113		
			公務員	. 242		
			無職・その他	-. 024		
中学時代のスポーツ経験は仲間づくりに役だった	. 472	7	役立った	. 127	. 108	7
			役立たない	-. 345		
高校時代に地域のスポーツ大会に参加した	. 437	8	参加した	. 251	. 131	5
			参加しなかった	-. 186		
23才以降のスポーツ経験は楽しかった	. 409	9	楽しかった	. 134	-	-
			楽しくなかった	-. 275		
高校時代のスポーツ経験にはいい思い出がある	. 392	10	有る	. 164	-	-
			無い	-. 228		
高校時代、休日などに自由に運動した					. 106	8
23才以降、休日などに自由に運動した					. 100	10

(注) 順位はすべての要因(48アイテム)中の順位であるが、11位以下は省略した。(η²=0.487)

長い方が参加に寄与する、という結果とは異なっている。

スポーツ経験に関するアイテムでは「23才以降にスポーツ・クラブに所属したことがある」が全体の順位の中で1位となっており、男女ともにスポーツ・クラブへの参加状況を強く規定する要因となっている。また、中学、高校時代のスポーツ経験に伴う「仲間づくりに役だった」「いい思い出

出がある」という認知が現在のスポーツ・クラブへの参加状況を規定しており、地域社会のスポーツ事業の充実とともに学校の運動部活動のみならず学校体育全体の充実が重要であることを示唆している。

IV 要 約

本研究は地域社会におけるスポーツ・クラブへの参加を規定する要因を探ることを目的とするものであったが、結果を要約すると以下ようになる。

1. スポーツ・クラブへの参加状況と説明変数との関係を探るため、 χ^2 値を求めたが、25の変数に有意差が認められた。

内訳は、個人的属性に関連して年齢、末子年令の2変数に有意差が認められた。また、スポーツ経験では、中学時代のスポーツ経験に関連して3変数に、高校時代のスポーツ経験に関連して7変数に有意差が認められた。また、19才～22才のスポーツ経験に関連して7変数、23才以降のスポーツ経験に関連して8変数に有意差が認められた。

2. 林の数量化理論Ⅱ類により、スポーツ・クラブへの参加の規定要因を探ろうとして、カテゴリール量のレンジによる考察を行ったが、上位10アイテムの内訳は個人的属性に関するアイテム5、スポーツ経験に関するアイテム5となっており、個人的属性に関するアイテムが半数を占めた。スポーツ経験に関してスポーツ・クラブへの参加に対する学生時代のスポーツ経験の影響は女子よりも男子の方で大きいことがわかった。

カテゴリール・スコアの寄与の方向では、個人的属性に関して「結婚」「居住地区」「末子年令」という男女共通のアイテムが見られたが「末子年令」ではカテゴリールの寄与の方向が女子とは異なった結果が見られた。また、「平日の自由時間」「職業」という女子に見られないアイテムも見られた。

スポーツ経験に関するアイテムでは「23才以降にスポーツ・クラブに所属したことがある」が第1位にランクされ、女子の場合と同様強い規定力を示した。また、中学、高校時代のスポーツ経験に伴う認知面もクラブへの参加状況を規定していることが明らかになったため、地域社会のスポーツ事業の充実とともに学校の運動部活動のみならず学校体育全体の充実が重要であると考えられる。

本研究はスポーツ・クラブへの参加の有無を基準として参加群、非参加群を分類し、外的基準とした。しかし現実的には、クラブの練習への参加頻度には個人差が見られ、練習に欠かさず参加する実質的クラブ運動者とクラブに所属はしながらも、あまり練習に参加しない形式的クラブ運動者が存在する。今回の研究はクラブへの参加・不参加を規定する要因の分析を試みたが、練習への参加状況に着目した規定要因の分析も重要であり、今後の課題としたい。また、本研究は現在のスポーツ・クラブへの参加・不参加を規定する要因を、過去のスポーツ経験及びそれに伴う認知の側面から分析しようとした。そのため、被調査者の回想を手がかりとしているが、正確なデータを得にくいという弱点を持っている。したがって、より正確なデータを得るための研究方法の検討も今後の課題としたい。

本研究では山口県教育委員会の御理解を得て、調査データを使用させて頂いた。ここに記して謝意を表する次第である。

注

- 注 1) 考察の中で使用した女子の分析結果はこの論文の中より引用したが、表の掲載については再掲載になるため見合わせた⁴⁾。
- 注 2) ここで取り上げているスポーツ・クラブは地域スポーツ経営の中でクラブ・サービスの対象とされるクラブに限定している。従って、商業スポーツ施設に見られるスポーツ・クラブは対象としていない。

引用・参考文献

- 1) 金崎良三：「スポーツ行動の予測と診断」, 徳永幹雄他著『現代スポーツの社会心理』, 遊戯社, 1985, PP.51～60
- 2) 嘉戸 脩他：「直接的スポーツ関与の分析とその要因に関する研究」, 体育社会学研究会編, 『体育社会学研究 6 スポーツ参与の社会学』, 道和書院, 1977, P.49
- 3) 前掲書 1, P.56
- 4) 福元和行・遠藤勝恵：「地域スポーツ・クラブへの女子の参加を規定する要因の分析」, 山陰体育学研究, 第10号, 1995, PP.30～35
- 5) 中村 平：「運動者と運動者行動」, 宇土正彦他著, 『体育経営管理学講義』, 大修館書店, 1989
- 6) 山田文康：「試験問題の難易度を予測する」, 渡部洋編著『心理・教育のための多変量解析法入門—事例編—』, 福村出版, 1991, P.125
- 7) 金崎良三他：「スポーツ行動の予測因に関する研究(1)」, 健康科学, 第3巻, 1981
- 8) 多々納秀雄他：「スポーツ参加の多変量解析(1)」, 健康科学, 1980
- 9) 山田文康：「数量化 I・II類」, 渡部洋編著『心理・教育のための多変量解析法入門—基礎編—』, 福村出版, 1991
- 10) 宇土正彦：『体育管理学』, 大修館書店, 1983
- 11) 嘉戸 脩：「運動クラブの運動欲求変容機能に関する一考察」, 体育社会学研究会編, 『体育社会学研究 3 体育とスポーツ集団の社会学』, 道和書院, 1974

